

埼玉県税務連絡協議会 会長賞

税で明るい未来を

東町中学校 三年 岩崎 葵

私の母は、私の前で涙を見せない人だ。しかし、一度だけ母の涙を見たことがある。二〇一八年九月に発生した北海道胆振東部地震で母の故郷が被災したことからの涙だった。母の実家は震度六強を大きく受けてしまい、全壊だった。私は母の涙と、大きすぎた自然の驚異にショックを受けた。

翌日、母は落ち着かないながらも普段通りに過ごしていた。そんな母に調子を聞いた。

「ただ落ち込んでいても何もならないからね。私もがんばらないといけない。」

私にはその言葉が腑に落ちた。それから、被災地が母の言葉をなぞるように復興へ歩んでいった。初めに自衛隊の方々が派遣された。自衛隊の方々のような国家公務員の給料は税金から支出される。そのような話は学校の授業で何度か耳にした。また、自衛隊の方々が配給してくれた水や食品までもが税金だという。自分や家族が出した税金が、誰かの食事の時の安堵や笑顔になっているのはとても嬉しく感じる。街の人々の安全が確保されると、今度は街の景色が変わってゆく。液状化や割れてしまった道路を直すこと、新しく仮設住宅を建てること、公共施設を復旧すること。三つのことにも税金が使われているらしい。母の故郷は税金を使用することで復興して

いったのだ。

約三年後、私は母と弟二人の計四人で、母の故郷へと帰省した。その街は、笑顔であふれていた。私の祖父母やおじ、近所の方々やスーパーの店員さん、それから私の母も。この街は税金によって復興され、税金によって新たな笑顔を生んだ。何より私は母の笑顔が見れてとても嬉しかった。だから、納税者の方々にはとても感謝し、私も税を必ず納めて他の人々の笑顔を生んでいきたいと思う。

税金は、あまり払いたくはないものだと考える人も多い。けれども、税金で生まれる笑顔があり、税金で助かる命がある。目には見えないかもしれないが、そこには誰かの明るい未来が待っている。それらを含め、納税に取り組んでもらえると、私は嬉しく思う。例えば自然の驚異にあらがえなくとも、人が涙を見せようとも、人が皆、税のように団結し協力する。きっとそれで明るい未来が見えてくるのだ。